

TOPICS

伝説のネギ「結崎ネブカ」が復活

川西町商工会（寺澤正男会長）では地域経済の振興を目的に、むらおこし事業として室町時代から伝わる伝説のネギ「結崎ネブカ」を復活させ、町のシンボルにしようという取り組みを平成14年度から3年計画で開始している。最終年度となる本年の12月には試食懇談会開催の運びとなっており、「地域ブランド」確立が現実味を浴びてきた。

■事業の概要

むらおこし事業は、町内の関係団体および住民等の協力を得て、川西町の地域資源（特産物、既存産業、未開発産業、観光資源）を活用し、内発的な地域産業おこしを図り、もって地域小規模事業者の新たな事業機会を創出することにより、地域の活性化ならびに活性化に寄与することを目的とするもので、国、県の助成を受けるほか、県商工会連合会の指導等を得て実施している。

■具体的な事業計画

川西町にある資源や眠っている資源、文化遺産、観光遺産などを調査し、新たな活用を通じて新しいビジネスチャンスへと発展させることを目的に、平成14年度から3年計画で実施。今年度はその最終年度にあっている。事業内容の詳細は以下の図表を参照。

事業内容の詳細

| | | |
|--------|---|---|
| 平成14年度 | <p>地域資源調査事業</p> <p>地元学への取り組み ↓ 地域を知り、地元を知る ↑</p> | <p>地域個性把握・未利用資源の発掘</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域資源の概念理解 ・地域内未利用資源の調査 ・特産品、名物料理等の開発検討 ・観光開発等の検討 |
| 平成15年度 | <p>地域特産品開発推進事業</p> <p>川西町特産品の創出 ↓ 地域全体での取り組み ↓ 観光資源の開発 ↑</p> | <p>特産品の選定・製造、観光振興ビジョン等の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特産品試作品候補の選定 ・特産品製造態勢の検討 ・特産品試作品制作 ・ネーミング、パッケージ及びデザインの検討 ・観光資源の活用 |
| 平成16年度 | <p>特産品販路開拓支援事業</p> <p>むらおこし事業の継続 ↓ 事業推進組織の設立 ↓ 川西情報の発信 ↑</p> | <p>特産品・観光資源のPR</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特産品試作品の宣伝PR ・販促用ツールの作成 ・販売先の開拓 ・特産品事業組織の検討 |

■事業の経過

○地域資源のリストアップ

町民アンケートおよび調査委員会、専門部会での意見聴取等から以下の地域資源をリストアップした。

| アンケートリスト | |
|----------|---|
| ジャンル | 地域資源 |
| 自然景観 | ・大和川 ・豊かな田園 ・大和盆地の山と田園 ・寺川桜並木 |
| 生産物 | ・貝ボタン ・スキー靴 ・イチゴ ・スイカ ・トマト ・結崎ネブカ |
| 歴史文化 | ・島の山古墳 ・面塚 ・糸井神社の絵馬 ・大和棟の家 ・油掛地藏 ・各神社の秋祭り ・白米寺仏像 |
| 人物団体 | ・観阿弥・世阿弥 ・毛利義之・毛利嘉右衛門（天誅組） ・井戸氏（浦賀奉行） ・米田雄郎（歌人） ・箸尾・中川氏（唐院集落形成） |
| その他 | ・工業団地 ・文化ホール ・図書館 ・駅前商業地 |

本事業の推進項目として、上記リストの中から「結崎ネブカ」「貝ボタン」「島の山古墳等の文化遺産」「駅前商業地（結崎駅周辺の活性化）」の4項目を選定した。

○結崎ネブカ選定の理由

- ①安全でおいしい食品ニーズに適合するための新しい農産品づくりは、川西町にとって農業振興の起爆剤になりうる。
- ②その一つとして、今に語り伝えられる「結崎ネブカ」の復興が考えられる。戦前まで名物となっていたこのネギを、室町時代から受け継がれた地域産品として再活性化を図る。

③農水産物のブランド化が著しい。「関アジ・関サバ」「京野菜」「夕張メロン」など地域のイメージとともにその産地の産品がブランド化することから、「結崎ネブカ」のブランド化を検討する。

○結崎ネブカの特徴と復活への取り組み

「結崎ネブカ」は、観世能発祥の地である同町で、「室町時代に天から翁の面とともに落ちてきた」と伝えられており、戦前までは大和野菜の雄として栽培されていた青ネギである。

しかし、葉が柔らかいため、途中で折れることから商品価値が低いとされ、戦後は栽培が途絶えていた。

平成15年度に商工会ではこの「伝説のネギ」を復活させるべく、まずは町内で種子を保存している農家がないかを調査。

その結果、自家採種をしていた農家があり、この農家から種を確保し、JA、町内子供会や婦人会、商工会女性部によって共同の植付会が実施された。

このときの結崎ネブカは、ほとんどが種子確保のために利用されたが、一部は「味見会」で関係者が試食した結果「甘くておいしい」との好評を得た。

■おわりに

商工会にはすでに大手スーパーや老舗の飲食店等から多くの引き合いがあるという。

しかしながら、今後「結崎ネブカ」を同町や奈良県の特産品にしていくためには町内の農家を中心に栽培農家を増やし、作付面積を拡大していく必要がある。さらに価格面や物流ルートの確保等クリアすべき問題も抱えている。

平成16年12月9日には業界関係者などを集めた試食懇談会が開催され、伝説のネギ「結崎ネブカ」が地域ブランド確立に向けていよいよ本格的に始動しはじめた。